

桑の葉パクパク お蚕さん

7月1日から約1か月間、ボランティア団体の「養蚕の会」が、養蚕の知恵を次の世代に伝えようと養蚕の館（相撲町）で、お蚕さんの飼育体験を実施されました。

参加した地元の子どもたちは、初めて見るお蚕さんを怖がることもなく「この葉っぱはおいしいよ」、「もっと食べて大きくなってね」と声をかけながら、桑の葉をあげたり、絵日記を書いたりとお蚕さんの世話を楽しんでいました。



7/1(水)
7/25(金)

ドミニカ共和国で植林指導

青年海外協力隊員としてカリブ海にあるドミニカ共和国で、植林指導をされていた松井彰さん（早崎町在住・24歳）が、7月9日、市役所を訪れ、川島市長に活動の報告を行いました。

松井さんは2年間を振り返り、「植林活動について言えば満足いくことができなかったが、現地の人々との生活を通して新たな生き方が見つかったし、人生に対する考え方が変わった。できれば将来、ドミニカ共和国で働きたい。」と語ってくれました。



7/9(水)

種子島だより

今回は、火縄銃の話です。

1543年8月25日、種子島の南端、門倉岬にポルトガル人を乗せた南蛮船が漂着しました。

第14代当主、種子島時堯(ときたか)は、ポルトガル人が所持していた火縄銃2挺を2,000両(今のお金で換算すると約2億円)で購入し、地元の鍛冶屋に命じて、その複製をつくらせました。しかし、鉄砲の銃身の底をふさぐネジ止め部分の構造がわからず、すぐには火縄銃を完成させることはできませんでした。

その後、1544年(もしくは1545年)に種子島を訪れたポルトガル人からネジの技術を習得し、国産第1号の火縄銃を完成させました。そして、その製法は、大阪の堺、国友へと伝播し、大量に作られるようになりました。

ポルトガル人によって伝来した火縄銃と国産第1号の火縄銃は現存しており、種子島開発総合センター(鉄砲館)で展示されています。

■ポルトガル初伝来銃(鹿児島県指定文化財)



■国産第1号銃(西之表市指定文化財)



所蔵：いずれも種子島時邦氏

西之表市市制施行50周年記念事業

鉄砲サミット「鉄砲伝来 今よみがえる種子島」-地元 国友鉄砲隊も参加！-

8月23日(土)：パネルディスカッション&歴史講演会

8月24日(日)：全国火縄銃大会(全国各地から集結する22団体の演武・各鉄砲隊代表による一斉試射)、のろしの実証、パレード、花火大会など



7/5(土)
7/6(日)

ほっとにゆるす

このコーナーは、市民のみなさんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介するページです。
あなたが見つけたおもしろいものがあれば、企画調整課 広報広聴グループ(☎6504)までお知らせください。

門前町の風情を取り戻して20年

ながはま御坊表参道にアーケードが設置されたのが昭和34年、県内で2番目という早さでした。その後、時代の変化と共に、大通寺の山門が見渡せる門前町としての風情を取り戻そうと、アーケードが取り外され、あわせて石畳の復元などを整備、平成元年に現在の姿に変わりました。今年、20周年を迎えるにあたり、参道を灯りのモニュメントで彩る催しが行われました。長浜養護学校高等部の生徒さんが作製した陶器製の灯り約120個が、幻想的な雰囲気でお客を迎えていました。

ブラジルの日常生活にふれる

ポルトガル語教室の生徒さんにもっとブラジルの文化にふれ、ブラジル人との交流を深めてもらうために「第1回ポルトガル語教室交流の場」が長浜公民館で開催されました。

参加者のみなさんは、日本では見慣れないブラジルの生活用品などを使ったゲームでブラジルの文化や生活を学んだ後、講師の先生とともにブラジル料理を食べながら食生活などの話もされていました。こうした交流が盛んになり、お互いの理解がどんどん深まっていくといいですね。



7/13(日)



7/21(日)

北京ではばたけ!

9月の北京パラリンピックに向け、シッティングバレー男子日本代表チームが、北郷里小学校体育館で大会前の強化合宿を行われました。合宿には、3回連続出場となる田中浩二選手(余呉町)ら代表選手12人と地元チームのサーカスのみなさんが参加。実戦さながらの試合形式の練習で汗を流されていました。

会場には、北郷里小学校の児童が選手たちへのメッセージを添え、「北京ではばたけ!」と大きく書かれた応援幕が掲げられ、それを見た選手たちは、大会向け決意を新たにされていました。